

<防災セット開発経緯>

- 2012年3月 帰宅困難経験者の問題に着目し、研究を開始。
2012年4月 都内の街頭で、帰宅困難者女性へのインタビュー調査を開始。
ヘッドプロテクターの開発を開始。
2012年7月 インタビュー調査、専門家へのヒアリング調査等をもとに、防災セットの内容を検討。7月以降延べ30社以上にアプローチし、パートナー企業を選定。
2012年8月 研究を進める中で「羽織る防災製品」の必要性に気づき、防災フードケープの検討・開発を開始。
2012年9月 ヘッドプロテクター第一回衝撃実験を実施。強度が足りず、100回に及ぶ試作と改良を繰り返す。
2013年2月 全アイテムの見本が完成。帰宅困難経験女性のインタビュー集「100人の真実」完成。
2013年3月 ヘッドプロテクター完成(予定)
2013年夏以降 全国の企業・自治体・学校等を対象に販売開始(予定)



ヘッドプロテクター衝撃実験の様子

<帰宅困難女性100人へのインタビュー「100人の真実」について>

東日本大震災時に帰宅困難を経験した女性100人への対面式インタビュー調査をまとめた冊子。女性の調査員3名が、2012年4月～12月にかけて、都内の街頭で直接声をかけ実施した。女性同士の会話の中でないと話づらい当時の不安や苦痛等を導き出し、帰宅困難時の知られざる実態を浮き彫りにした。インタビュー結果と、一般的な防災セットに同梱されている製品を比較し、帰宅困難時の必要最低限の備えを検証した。



「100人の真実」

<産学連携プロジェクト「^{エスジーピー}SG:P」について>

2012年3月に立ち上がったデザイン工学部・大島研究室と株式会社谷沢製作所(代表取締役社長:谷澤和彦)、大日本商事株式会社(代表取締役社長:柏原茂)ら提携企業10社からなる産学連携プロジェクト。都市災害時に求められる“自助”の考え方を基に、常に身近に備え、最低限自分の身を守る為の新しい防災セットを提案する。軽さ・薄さ・携行性にこだわり、100人の帰宅困難経験者に対するアンケート結果から、帰宅困難者の必要最低限を検証、独自の防災グッズを開発・販売し、それを通じての防災対策・防災知識の向上を目指す。



<法政大学デザイン工学部システムデザイン学科 大島研究室について>

「問題解決型デザインシンキング」を掲げ、社会に内在する様々な問題を単に研究対象とするだけでなく、企業との共同開発でプロダクトやインフラに落とし込み新しい価値創出を目指している。1テーマに対し少人数で研究に取り組み、学外へのアプローチも学生から行うことで主体性や未来を見据える力を養っている。

担当教員:大島礼治教授(デザイン工学部システムデザイン学科)
東京芝浦電気株式会社(現東芝)にて、家庭電気製品・産業機器等のデザインに従事した後、多摩美術大学デザイン助教授などを経て、2004年より法政大学教授。専門は社会システムデザイン、コンセプトデザイン、インダストリアルデザイン。



デザイン工学部
大島礼治教授